

(1) 学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対 策(・)
国語	○教科全体の正答率、内容別の正答率とも、いずれも全国平均を3ポイント程度下回るものの、県平均とはほぼ同程度である。 ●漢字の書き問題で、「あついで」の正答率がかなり低く、同音異義語や同訓異字の理解・使い分けに課題があると考えられる。 ●問題形式で見ると、選択式に比べ、短答式や記述式の正答率が低く、無解答率も高いなど、記述式の問題に課題がある。	・書く内容や文字数など条件に合わせた短作文を書く機会を多くする。 ・文章を書く際、1つの文章を短くすることを意識させ、思考を整理したり順序立てて説明したりできるようにする。 ・漢字指導の際、同音異義語や同訓異字の指導に力を入れ、漢字の意味を考えた使い分けができるようにする。
算数	○異分母分数の足し算の正答率が全国や県を3ポイント以上上回っており、分数の足し算・引き算の知識・技能は定着している。 ●教科全体、領域別、いずれの正答率も、全国や県の平均をかなり下回っており、特に記述式問題に課題がある。 ●全体的に無解答率が高く、算数に対する学習意欲や粘り強さにも課題があると考えられる。	・各領域の系統性を意識して指導にあたり、低学年から各学年の学習内容を確認に身につけることができるようにする。 ・答えを求めるだけでなく、思考の過程を説明したり話し合ったりする学習を展開する。 ・複数の指導者による少人数指導や個別支援を充実させ、算数に対する苦手意識を減らし、学習意欲や粘り強さを育てる。
理科	○水の性質や電磁石の強さに関する知識・技能、思考力・判断力が、全国平均、県平均を大きく上回っている。 ●「水のしみこみ方」、「ヘチマの花のつくり」などの問題の正答率が低く、これらの領域の学習に課題があると思われる。 ●国語、算数と同様に、記述式問題の正答率が低く、無解答率も高いなど、記述式の問題に課題がある。	・植物や地面の様子など、自然の観察が中心となる学習への興味・関心を高める工夫、学習展開の工夫をする。 ・領域や内容の学年の系統性を意識して指導にあたり、関連する知識・技能を繰り返し思い出したり使ったりする場を設ける。 ・理科の用語やキーワードを使って分かったことをまとめたり、考えや理由を書いたりする機会を多くする。

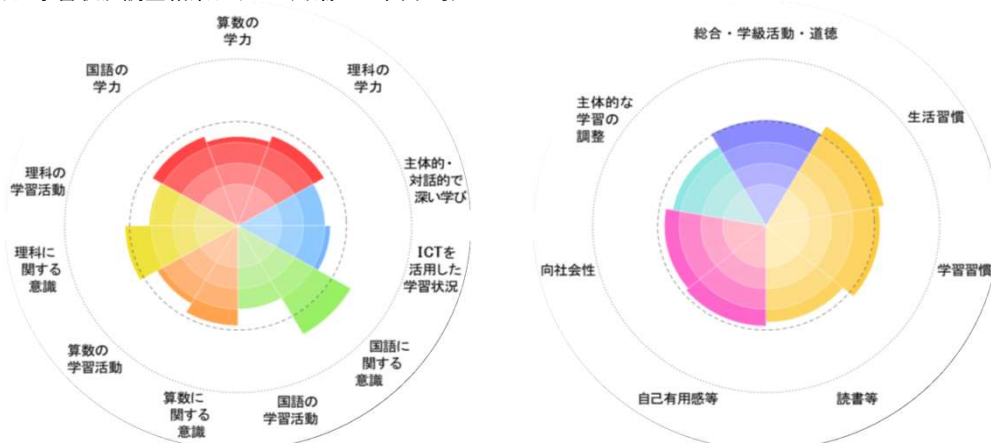
(2) 質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対 策(・)
質問紙	○「自分にはよいところがある」「夢や目標を持っている」などの肯定的割合が高く、自己有用感や将来への意欲があるといえる。 ●タブレットなどICT機器の使用頻度が、全国や県に比べて低い。 ●「勉強は好きか」「授業内容が分かるか」という質問で、国語に比べ算数の肯定的割合が低いことから、算数に対して学習意欲が低く、苦手意識があることがうかがえる。	・タブレットなどのICT機器をより積極的、効果的に活用する。 ・各学年の算数の指導をより充実させ、「分かる・できる」学習体験を増やすとともに、特に学力下位層の基礎学力、学習意欲の向上を図る。

(3) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

学校全体	・全校で行う毎月の漢字書き取り会や計算大会の事前の練習を充実させ、漢字や計算を着実に身につけさせるようにする。 ・社会科の資料の読み取りや総合的な学習の調べ学習などの機会を捉え、複数の資料を結びつけて考えたり資料の中から必要な情報を選んでまとめたりする学習経験を積み上げる。
------	--

(4) 学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



【受検者数】

52

名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

(5) 質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

